

2次試験対策講座 体験レポート①

——「読む力」「考える力」「書く力」を磨いたAASの2次講座

山上 敬

中小企業診断士 平成22年登録予定

はじめに 1

中小企業診断士試験の受験勉強を始めたとき、私はメーカーの研究所に勤務していた。時代の流れで、私の研究テーマは、自然科学分野から社会科学分野に徐々にシフトしていた。そんな中、経営の知識も断片的に学んでいた。こうして得た知識を、体系的に学び直したいと思ったのが、診断士試験の受験を志したきっかけだった。

私は、勉強を始めて2年目で合格することができた。この2年間で振り返ると、役に立ったことや失敗したことがいろいろあった。その中でも、2年目にAAS（アソシエ・アドバンス・スクール）に通って得た気づきが合格の原動力になったと感じている。この体験レポートは、AASでの体験を中心に、私がどんな受験勉強をやって、ど

【私の受験歴】

	平成20年度	平成21年度
第1次試験	○	○
第2次試験	CABA 総合B	○

※平成21年度は、2次試験の受験権利を有していたが、2次試験につながる情報を収集する目的で、1次試験から受験した。

んなことに気づいたかを記すものである。受験者の参考になればと思う。

AAS との出会い 2

1年目の2次試験の前には、1回しか模試を受けていなかった。本番前に、もう一度模試を受けたかったのだが、探しても見つからず、インターネットでたまたま見つけたAASの「2次試験対策 超直前対策講座」に申し込んだ。

その講座は2次試験本番の1週間前に開催され、「答案を作成するための1次知識を再確認する6時間」というサブタイトルがつけられていた。われらにもすぎる思いで参加したのだが、予想以上の収穫があり、目からウロコの講座だった。それは、1次知識を2次試験で使えるようにフレームワークとして体系化するものだった。

しかし、せっかく手に入れたフレームワークという武器も、1週間前では使いこなすまでにはいならず、1年目の2次試験には敗退してしまった。

講座のスケジュールと内容 3

2年目は、迷わずAASの通学講座に申し込んだ。

AASは、中小企業診断士の2次試験に特化した受験機関で、本科通学コース、通信コース、HPクラスがある。少人数制で、講師は受講生と対話しながら講座を進めていくのが特徴である。

私は、解き方や考え方についてディスカッションができること、フェイス・トゥ・フェイスで効率よく学習できることを重視して、本科通学コースに決めた。

(1) 講座のスケジュール

私が通った大阪の講座は、隔週の日曜日（10：00～17：00）に開催され、スケジュールは以下のとおりであった。

1～2月：インプット講座

3～4月：アウトプット講座1回目

5～6月：アウトプット講座2回目

（7月：1次試験の勉強のため休み）

8～9月：アウトプット講座3回目

(2) インプット講座

インプット講座は3回に分けて行われ、「読む力」、「考える力」、「書く力」を学んだ。「読む力」では国語力で与件文を読むことと設問文を丁寧に読むことを、「考える力」ではAASの戦略フレームワークをどう活用するかを、「書く力」ではロジカル・シンキングを活用してわかりやすい文章を書く方法を演習で学んだ。

AASで学んだことは、この内容に集約されているといってもいいほど、充実した講座であった。しかし、インプット講座だけでこれらの力を自分のものにするのは難しく、次のアウトプット講座を経験してはじめて、「読む力」、「考える力」、「書く力」の3つが使いこなせるようになった。

(3) アウトプット講座

アウトプット講座は、事例問題の演習を行う講

座である。各事例3回、トータル12事例の演習を1日1事例のペースで実施する。アウトプット講座の時間割は、おおむね以下のとおりであった。

10：00～10：30：①目標の明確化

10：40～12：00：②事例問題の演習（80分）

12：00～13：00：③与件整理と設問分解

（昼休憩）

14：00～16：30：④事例問題の解答解説と議論

16：30～17：00：⑤財務トレーニング

（喫茶店へ移動）

17：00～18：00：⑥反省会

① 目標の明確化

まず、各自がその日の目標を宣言する。1日のゴールをイメージすることで、目標とする「読む力」、「考える力」、「書く力」の達成レベルや、何を試してみるかが具体化できた。

私は、毎回違う80分の戦い方を試してみた。たとえば、「考える時間を10分とる」、「接続詞を補完して読む」、「段落のタイトルをつける」、「消しゴムを使わない」、「下書きをする」、等である。

② 事例問題の演習（80分）

本試験と同じ80分間で、AASオリジナルの演習問題を解く。

③ 与件整理と設問分解

受講生が1人ずつ指名されて、与件文の各段落に書かれている重要なキーワードを抽出して、SWOT分析を行い発表する。

続けて、各設問文の題意や制約条件を発表していく。ここまでが午前中の講義である。

④ 事例問題の解答解説と議論

午後は、2～4人の班に分かれて議論し、ベスト答案を作成する。それを板書して発表し、講師や他の班のメンバーからコメントをもらう。

何人かで協力してつくったベスト答案のはずなのに、悪い癖が出ていたり、見落としがあったり、指摘されてはじめて気づくことが多かった。

厳しい指摘も数多かったが、楽しい時間でもあった。ここで徹底的に議論できたからこそ、「読む力」、「考える力」、「書く力」を武器にすることができたのだと思う。

⑤ 財務トレーニング

講座の最後に、財務・会計の演習問題を解く。10分程度の問題でちょうどよいレベルと分量だったので、直前期の日課として毎日1問を解き、財務・会計の計算に自信をつけることができた。

⑥ 反省会

正規の講座終了後、喫茶店へ移動して、各自の反省をもとに、次回まで具体的に何に取り組むかを話し合う。強制的に2週間ごとの計画の見直しができ、他人に宣言することで、自分を追い込むことができた。

(4) その他のオプション

AASでは、通学講座の他に、ダウンロード教材、イベント講座、合格判定合宿があり、受講者のペースに合わせてオプションで利用できた。

① 教材ダウンロード

AASでは、受講生向けのWebページからダウンロードできる教材が豊富にあった。その中で、過去問を解説する音声ファイルと各事例のフレームワークを解説する音声ファイルをダウンロードして、移動中に聞くようにしていた。

最初はメモを取りながら内容を把握できるまでじっくり聞いて、その後は、BGM的に聞いていることもあった。そんな聞き方でも、反復すると刺激—反応モデルが自然とできていく効果が自覚できた。

② イベント講座

本科通学コースの他に、トピック的なテーマで演習を行うイベント講座があった。私は、次の3講座を受講した。どの講座も楽しく、気分転換になるうえ、ピンポイントで弱点を補強できる内容

の濃い講座だった。

- ・「おいしいとこどり」セミナー：中小企業白書から製造業の成長戦略をピックアップする
- ・「論理トレーニング」演習：接続表現に注意する、自称頑固者は必ず参加してほしいセミナー
- ・【事例Ⅳ対策】いざ勝負！：15分×10題の管理会計分野の計算演習にチャレンジするセミナー

③ 合格判定合宿

合格判定合宿は、ゴールデン・ウィークと2次試験直前の2回開催された。内容は、アウトプット講座4事例分を2日間に詰め込んだもので、9：30から20：30までのハードな合宿である。

特に、直前の合格判定合宿は、体力的にも精神的にも疲れが残るかもしれないし、成績が悪いと自信をなくしてしまうリスクもある。しかし、私は直前に80分の実戦的な感覚に体を慣らしておくために参加した。結果論かもしれないが、モチベーションが高まり、勢いをつけて本番を迎えられたので有意義だったと思っている。

自宅学習

4

AASの特徴の1つに、自宅学習の指導がある。講師と相談して自宅でやる課題を決めるのだが、受講生1人ひとりが使える勉強時間や解答の癖などを考慮して、効果的な方法を提案してもらえる。さらに、その課題を提出して、何度でも添削を受けられるのである。

(1) 設問分解トレーニング

私の場合は、勉強時間を長くとれたので、過去問を使った設問分解トレーニングを行った。設問分解トレーニングとは、自分が解答を導いたロジックを書き出して確認するトレーニング方法である。書き出す項目は、①設問の題意、②制約条件、③1次試験の知識、④与件文の活用法、⑤解答の

論理構造,⑥気づき事項,である。

私の設問分解トレーニングのやり方は、まず夜に過去問を80分以内で解く。睡眠中、無意識に過去問が頭の中で整理され、冷静になることで新たな気づきが生まれる効果を狙った。そして翌日、解答のロジックを書き出していく。時間をかけてロジックを整理すると、新たな気づきや発見があり、何度も解答を書き直すことになる。1事例に3日も4日もかかることがあったが、じっくり過去問を研究することができて、非常に効果的な学習方法だった。

私は、過去問3年分の設問分解トレーニングを徹底的にやった。その過程で、厳しい添削指導と心温まる激励の言葉を何度ももらった。おかげで飽きっぽい私でも続けることができた。3年分が完了したのは試験の2週間ほど前だったが、やり遂げた達成感を持って本番に臨むことができた。

(2) 写経

また、講師からすすめられ、過去問の与件文と設問文をそのまま書き写す写経をやってみた。これを通じて、それまで気づかなかった細かい点にも気づけるようになった。気分の乗らないときでも、細部に注意して読むことができるのでよい方法である。写経した文書は、色分け・線引きして1ページに印刷し持ち歩いていた。1ページに印刷すると、一覧性が飛躍的に向上しイメージで捉えやすくなる効果があった。

AASで得た 事例Ⅰ・事例Ⅳへの自信 5

AASで学んで、事例Ⅰと事例Ⅳに自信を持つことが、試験当日の余裕につながった。

(1) 事例Ⅰでロケットスタートを

設問分解トレーニングでの最大の気づきは、事

例Ⅰの攻略方法だった。事例Ⅰには、AASのフレームワークが面白いように当てはまった。苦手な受験者が多い事例Ⅰを、AASの組織・人事のフレームワークを使ってうまく解答すれば、スタートダッシュを決められると自信を持って本番に臨めた。

(2) 事例Ⅳで逆転サヨナラを

事例Ⅳについては、経営分析のパターンをマスターできていたこと、毎日コツコツ計算問題をこなしたことが自信になっていた。他の事例で失敗しても、20点くらいなら、最後に逆転できると思っていた。実際は、計算問題を全問外してしまったのだが、経営分析でしっかり解答できたのが幸いした。

おわりに 6

AASでは、「もっと素直になれ」と何度も言われた。1年目の敗因は、独りよがりな解答をしていたことだと自覚していたので、2年目はより多くの人にわかってもらえる素直な解答を、丁寧に伝えることを目標にしてきた。そのために、まず首をタテに振ることを心がけた。性格はなかなか変えられないが、筋肉を動かすことはできると思ったからだ。首をタテに振る習慣ができ、いろいろな人の意見を素直に受け入れることができるようになっていったと思う。

AASの講座では、多くの人の意見に素直に耳を傾けることができた。みんなの考え方を少しづつ拝借して、事例企業の相談に答えた結果が、合格につながったのだと思う。

私の強みは、講師の方々や受験仲間から、情報と励ましをもらったことだ。受験者の皆さんも、よい講師、よい仲間を見つけて、合格を勝ち取ってほしい。